

ブドウのべと病、うどんこ病、黒とう病の発生増加が予想されます

～梅雨期の防除を徹底して収穫期の多発生を防ぎましょう～

5月29日からの梅雨入り後、全県的にぐずついた天気が続き、トンネル栽培のブドウにおいて、べと病、うどんこ病及び黒とう病の発生が目立っています。

今後もこれらの病害の感染に好適な気象条件が続くとの予報があることから、さらに発生が増加することが予想されます。降雨の合間に防除を徹底して、圃場内の菌密度をできるだけ低くすることにより、収穫期の多発生を防ぐように努めましょう。

1. 発生状況

(1) べと病

6月中下旬に行った県内主要産地における発病調査では、発生圃場率が88.9%(6月中旬平年:40.3%)、発病葉率は6.8%(6月中旬平年:1.9%)であり、発生圃場率、発病葉率ともに平年よりも高かった。(第1表)

第1表 ブドウ(「ピオーネ」トンネル栽培)におけるべと病の被害状況について

年度/月旬	発生圃場率(%)					
	4月 下旬	5月 中下旬	6月 中旬	7月 中旬	8月 下旬	9月 下旬
2001	0.0	0.0	40.0	70.0	100.0	100.0
2002	0.0	10.0	40.0	60.0	80.0	90.0
2003	0.0	0.0	90.0	100.0	100.0	100.0
2004	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0
2017	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	83.3
2018	0.0	0.0	16.7	50.0	33.3	66.7
2019	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
2020	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	83.3
2021	0.0	0.0	33.3	66.7	50.0	83.3
2022	0.0	0.0	66.7	66.7	16.7	83.3
2023	0.0	0.0	88.9			
平年値	0.0	1.0	40.3	54.7	51.3	82.3

年度/月旬	発生圃場における発病葉率(%)					
	4月 下旬	5月 中下旬	6月 中旬	7月 中旬	8月 下旬	9月 下旬
2001	—	—	1.3	21.1	28.9	42.3
2002	—	1.0	1.8	1.5	15.9	15.8
2003	—	—	5.8	25.0	66.8	69.5
2004	—	—	3.0	41.9	74.0	36.9
2017	—	—	0.1	5.0	—	14.2
2018	—	—	0.1	26.3	3.5	16.0
2019	—	—	—	—	—	7.5
2020	—	—	—	7.0	10.5	5.0
2021	—	—	2.5	21.8	19.0	3.1
2022	—	—	0.7	0.9	4.0	8.4
2023	—	—	6.8			
平年値	0.0	1.0	1.9	16.7	27.8	21.9



写真1 葉に発生したべと病の症状



写真2 果実に発生したべと病の症状

(2) うどんこ病

6月中下旬に行った県内主要産地における発病調査では、葉での発生は平年と同様に認めなかったが、果房での発生は発生圃場率が33.3%(6月中旬平年:3.3%)、発病率率は2.2%(6月中旬平年:1.1%)であり、発生圃場率、発病率率ともに平年よりも高かった。(第2表)

第2表 ブドウ(「ピオーネ」トンネル栽培)におけるうどんこ病の被害状況について

発生圃場率(%) (房)				発生圃場における発病率率(%)			
年度/月旬	6月	7月	8月	年度/月旬	6月	7月	8月
	中旬	中旬	下旬		中旬	中旬	下旬
2001	0.0	0.0	0.0	2001	—	—	—
2002	0.0	0.0	0.0	2002	—	—	—
2003	0.0	0.0	0.0	2003	—	—	—
2004	0.0	0.0	0.0	2004	—	—	—
2017	0.0	0.0	0.0	2017	—	—	—
2018	0.0	0.0	—	2018	—	—	—
2019	0.0	0.0	—	2019	—	—	—
2020	0.0	0.0	0.0	2020	—	—	—
2021	33.3	0.0	0.0	2021	1.1	—	—
2022	0.0	0.0	0.0	2022	—	—	—
2023	33.3	—	—	2023	2.2	—	—
平年値	3.3	0.0	0.0	平年値	1.1	0.0	0.0



写真3 果房(粒)に発生したうどんこ病の症状

(3) 黒とう病

6月中下旬に行った県内主要産地における発病調査では、葉での発生は発生圃場率が44.4%、発病率率は0.4%であり、果房での発生は発生圃場率が11.1%、発病率率は0.5%であった。(第3表)

第3表 ブドウ(「シャインマスカット」トンネル栽培)における黒とう病の被害状況について

発生圃場率(%) (葉)				発生圃場における発病率率(%)			
年度/月旬	4月	5月	6月	年度/月旬	4月	5月	6月
	下旬	中下旬	中旬		下旬	中下旬	中旬
2023	0	11.1	44.4	2023	—	1.0	0.4

発生圃場率(%) (房)		発生圃場における発病率率(%)	
年度/月旬	6月	年度/月旬	6月
	中旬		中旬
2023	11.1	2023	0.5



写真4 果房(粒)に発生した黒とう病の症状

2. 防除対策

【共通】

- (1) 薬剤防除を実施していない園では防除暦(香川県監修)等を参考に早急に防除する。
- (2) 収穫前の栽培圃場で薬剤防除を行う場合は、使用時期に注意して薬剤を選定する。
- (3) 発病葉及び発病果実が伝染源となるので、圃場外に持ち出して適正に処分する。
- (4) 農薬の使用回数は収穫終了から翌年の収穫終了までの回数を数えるので、使用回数制限のある薬剤では回数に注意して使用すること。
- (5) 袋掛け栽培では袋掛け前の薬剤散布を必ず行う。

【べと病】

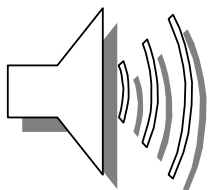
- (1) 袋掛け後はI Cボルドー66Dなどの無機銅を主体に用いて防除を徹底する。
- (2) QoI殺菌剤(ストロビードライフロアブル等)は耐性菌が発生しやすいため、これらの薬剤の連用は避ける。これらの剤を使用したにもかかわらず発生が多い圃場では、耐性菌の発生が疑われるのでランマンフロアブルなどの他系統の薬剤を使用する。

【うどんこ病】

- (1) 発生が著しい場合は果房ごと除去する。
- (2) 数粒の発生の場合は早めに摘粒する。
- (3) 袋掛け前に多発している場合はトリフミン水和剤などを散布する。

【黒とう病】

- (1) シャインマスカットなど本病に弱い品種は特に防除を徹底する。
- (2) 発生が著しい場合は果房ごと除去する。
- (3) 数粒の発生の場合は早めに摘粒する。
- (4) 柔らかい葉は本病に感染しやすいため、新梢先端や副梢、雨水のあたりやすい場所にも十分農薬がかかるように散布する。
- (5) 袋掛け前に多発している場合はトリフミン水和剤などを散布する。



6月～8月は、農薬危害防止運動月間です。

農薬の使用が増える時期ですので、今一度、農薬を適正に使用できているか、チェックしましょう。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

